観光誌上講座　第10回

北海道の「健康を考える観光」拠点づくりを目指したイムノリゾート構想

今年はスギ花粉疎開ツアーとメタボビート（克服）ツアーのブレークの年に！

西村　孝司

〈上士幌町の全国5自治体連携国土施策創発調査〉

スギ花粉疎開ツアーに端を発してNPOイムノサポートセンターが推進してきている「健康を考える観光」は国土交通省、厚生労働省、内閣府が注目する我が国を代表するヘルスツーリズムとして認知されるようになった。それを証明する平成19年度国土施策創発調査の全国5自治体連携で行う健康長寿社会を考える地域滞在型観光モニターツアーが上士幌で1月24日～27日に行われます。上士幌町は我々と共に医科学的根拠に基づいたスギ花粉疎開ツアーを全国で初めて企画した町であり、今やイムノリゾート構想、ヘルスツーリズムの発信の地として全国に知られるようになった。今回の国土施策創発調査は国土交通省、厚生労働省、上士幌町が発案者となり企画され全国5自治体連携の幹事自治体も上士幌町がつとめる。

今回の企画・実施にはNPOイムノサポートセンターが協力し、花粉症疎開ツアーとは異なるコンセプトで、今後の北海道ヘルスツーリズムのキーワードとなる免疫バランスの他に食育、メタボ対策を加え「美味しく・楽しく・健康な4日間」のモニタリングツアーを企画した。食育はメタボ・ビートキャンプinタ張でお世話になり、今NPOイムノサポートセンターの食育体験ツアーのキーパーソンである藤女子大学の、三田村理恵子先生が指導してくださる。また、札幌医大、小海康夫教授には、このツアーから参加していただいてメタボチェックや対策をお願いする。現在、精度の高いメタボ診断用アンケート用紙を作製しており、今後この北海道式メタボアンケートシートはストレスチェックに汎用されているPOMSアンケート用紙と同様にヘルスツーリズムを推進する重要なツールになると考えている。

〈ブレークが期待されるスギ花粉疎開ツアー〉

さて、今年は東日本ではスギ花粉が昨年の2～3倍飛散すると予想されており、上士幌でスギ花粉疎開ツアーを開始した平成17年と同様の花粉症疎開ツアーの当たり年になると思われる。既に3社がスギ花粉症疎開ツアーを企画している。中でも、昨年、日本観光協会総会の小生の基調講演を聞いて、全面的に支援をすると言明してくれた全国旅行業協会と北海道旅行業協同組合が主催、NPOイムノサポートセンターが企画・実施協力して行う札幌でのスギ花粉症疎開ツアーはブレークする可能性が大きい。札幌のコンドミニアムに1週間滞在し、その間に一度は北大病院あるいは小樽の相馬耳鼻咽喉科で花粉症の問診、アレルゲンチェック、対策指導を行う。また、北大での診断の際には、小生の免疫バランスとアレルギーの講義を聴き、アレルギー発症のメカニズムやその対策のために、日常の生活環境の改善を計り、健康的な食事をし、ストレスを発散させることが如何に重要かを認識していただく。さらに、どのような食事バランスが健康維持に良いのかについては、12月号に報じた札幌中央卸売市場との連携により、市場における食育と免疫の体験ツアーをおこなって実際の調理実習などを通じて理解してもらう。もちろん、帰りには、場外市場でのお買い物ツアーを行うことによって、札幌の観光経済の推進にも繋がる取り組みとなる。

免疫バランスは花粉症疎開ツアー、メタボビート（克服）ツアーを推進する科学的概念

「健康を考える観光」は単なる物見遊山的観光ではなく、医科学的根拠に基づいたヘルスツーリズムであると日本観光協会のヘルスツーリズム推進会議で定義された。しかし、旅である以上、あまりにも堅苦しいものでは駄目で、やはり、7～8割は楽しい旅の要素が必要であろう。その意味では、全旅が企画するスギ花粉疎開ツアーは1週間のうち1日は花粉症に対する医科学的取り組みが盛り込まれ、後の6日間は、夕張ツアー、旭山動物園ツアー、美瑛・富良野ツアー、小樽ツアー等自分のすきな旅を計画することができ、新たな滞在型のスギ花粉疎開ツアーの発信になると思われる。

また、本家本元の上士幌でも、上述の国土施策創発調査モニターツアーの20名を一瞬のうちに完売させたクラブツーリズムが担当して大々的にスギ花粉疎開ツアーを実施する。また、10月にNPOイムノサポートセンターや村上医師の夕張医療センターとの協力でメタボビートキャンプinタ張を実施した夕張リゾートの西田社長も新たな枠組みで花粉症疎開ツアーを行うことを言明している。「健康を考える観光」は夕張再生の柱となり、2月20日には北海道労働局「地域雇用創造推進事業」の一環として滞在型中核人材育成を目指したニューツーリズムのシンポジュウムが開催される。国からは、国土交通省観光地域振興課室長、石川雄一氏が出席して「観光立国日本の将来構想」を、また北大教授、高等観光センター長の石森秀三氏には「北海道観光におけるニューツーリズム重要性」を、また小生が「イムノリゾート構想による北海道の活性化の可能性」について講演を行う。また、上記メンバーの他、西田社長、夕張医療センター理事長、村上医師にも参加いただき、日本観光協会の中里恒昭氏の司会によるパネルディスカッションが行われる。村上医師の熱い医療サポートが受けられるので、NPOイムノサポートセンターとの連携によってスギ花粉疎開ツアーとメタボ対策ツアーをジョイントさせた新たな健康観光の創造も可能かもしれない。

昨年まで共にスギ花粉疎開ツアーを企画してきたJTBからは今のところ打診はないが、スギ花粉疎開ツアーを北海道に定着させるためには目先のことを度外視した数年間の継続的取り組みが必要と思われ、是非とも今年も企画してもらいたい。

昨年の日経ビジネス11月26日号に「大企業の行列ができるNPO」で紹介されたNPOイムノサポートセンターの活動は、「健康を考える観光」の科学的実証をサポートするNPOとしてその活動内容がかなり認知されるようになった。また、イムノサポートセンターの主な事業の認証制度も動き始め、第1号のイムノリゾートゴールドマークとシルバーマークは上士幌町の森林や温泉、旅館（糠平館観光ホテル）に付与された。また、食品の初めてのイムノリゾートゴールドマークの認証はキッコーマンのトマトのちからに付与される。これで、北海道発のイムノリゾートマークが全国に発信されることになる。しかし、NPOイムノサポートセンターの事務能力を充実させ、ビジネス性を構築し、更なる飛躍をするためには、各方面からの益々の協力と会員としての参加をお願いしたい。

5月から10月までの北海道観光にとって一番良い時期に食育、メタボ対策、運動などを絡めたメタボ・ビートツアーも今年は飛躍的なブレークをするものと期待され、NPOイムノサポートセンターは今年も体内環境の改善を目指した「健康を考える観光」を北海道に定着させるために努力、活動して行く予定です。

（北海道大学遺伝子病制御研究所・免疫制御分野教授、NPOイムノサポートセンター理事長）

どうぞよろしく

▲スカイレディ千歳（千歳市）
中島　由貴さん
三村　あゆみさん

地域の取組　事業・人

⑩留萌支庁

留萌支庁管内は、暑寒別天売焼尻国定公園を擁し、美しい自然に恵まれ、「留萌のニシン街道」や「増毛の歴史的建物群」等の貴重な北海道遺産を有しています。高規格道路の整備等により札幌や旭川からのアクセスも向上しているにもかかわらず、管内の観光客の入込数は平成18年度で約160万人と低調に推移しており、観光の特徴としては、夏季に入込客数が集中し、日帰り客が圧倒的に多い、「夏季集中型・通過型」といえます。

留萌支庁においては、新鮮な魚貝類、バリエーションに富んだ農作物などを活かし、観光振興を促進し、地域の活性化につなげていく施策として、平成17年から「るもい『食』ロード構想」を掲げ、「食」と「観光」を基軸として取組みを進めています。

留萌管内において、最近では、増毛町の「千石場所」や事業の一環として、「タコ箱漁オーナー」の募集をしたところ、道内はもちろん全国各地から2万件を超える多くの応募があり、「るもい」の知名度を高めました。また、10月には、管内の飲食店・宿泊施設と生産者との意見交換などを通じ、地元食材の活用を促進することを目的として、「こだわりの食材」産地交流会を開催しました。観光誘致策としては、10月、旭川市内から公募し、苫前・羽幌・初山別の中部3町村、増毛町をメインに、「食」と「体験」を盛り込んだ「モニターツアー」の実施、さらに11月には札幌のかでる2・7において、札幌市内の旅行代理店・旅行雑誌社の担当者を対象とした「プロモーション会議」を開催し、市町村観光関係者によるプレゼンテーションの後、「糠ニシンの三平汁」「しじみパイ」「たこおこわ」など、るもいの食材を使ったメニューの試食コーナーを設け、留萌管内の「食」と「観光」の魅力をアピールすることができました。

今後も、関係機関や地域住民と連携し、道内外に「るもいファン」を増やしていけるよう、留萌管内の魅力ある「食」を活かした観光振興に意欲的に取り組むこととしております。ぜひ、「るもい」を訪れ、滋味豊かな旅を満喫していただきたいと思います。

「こだわりの食材」産地交流会での遠別川サケ捕獲場視察（上）かでる2・7での「プロモーション会議」～留萌の食材を使ったメニューの試食会（下）

「るもい『食』ロード構想」の取組みについて

会員の購読料は会費に含まれています

観光のお問い合わせは
■北海道観光連盟　札幌市中央区北3条西7丁目1番地　緑苑ビル2階
TEL (011) 231-0941　FAX 232-5064
●北海道さっぽろ「食と観光」情報館
札幌市北区北6条西4丁目JR札幌駅1階西通り北口
TEL (011) 213-5088　FAX 213-5089
■北海道経済部観光のくにづくり推進局　札幌市中央区北3条西6丁目　道庁8階
TEL (011) 231-4111 (代)　FAX 232-4120